

Kids Wave きつずうえいぶ

第19号
2020年7月

社会福祉法人

大村子供の家



三密を避け、濃密な時間を

新型コロナウイルスの影響で生活が大きく変化していく中、春から規模の縮小こそあったもののそれぞれ待ちに待った新生活が始まりました。ワクワク、ドキドキ・・・そんな気持ちもつかの間、慣れる間もなくまたしても小中高校は休校。全国的に緊急事態宣言が出され、今までに経験したことのない自粛生活が始まりました。

子ども達は実家への帰省を控え、近所への買い物もままならず、時間を持て余す毎日でした。時間はあるが勉強にはなかなか向いてくれない。どこの家庭でも同じでしょうが、周りの大人も大変です。毎日3度の食事の準備に加え、宿題を前になかなか集中できずいつの間にか席を立つ子ども達との格闘が始まります。「勉強しよう!」「集中して!」とどれだけ同じ言葉をかけ続け、「するし・・・」「ちょっと待って」とどれだけ同じ言葉が返ってきたことでしょう。幸い、子供の家には広いグラウンドと体育館があります。溜まったストレスを発散しようと午後から思いっきり身体を動かして遊んだり、インドアでゲームをしたり本を読んだりする子ども達。天気のいい日は外でBBQをしたりしました。b & g やキッズランド、キッズホームの子ども達も自粛期間なりの工夫した活動を行いました。ホームや事業所ごとに工夫をこらして、人込みを避けつつ楽しく過ごせるイベントを時々織り交ぜ、「密」を避けながらも職員は子ども達との「濃密」な時間を過ごすことができたようです。



③「園内マニュアルの充実・改善」
子どもたちの生活ルールや職員の働き方の見直し・改善を行っています。その時の状況に合わせ、子ども達のニーズも受け止めながら見直し等進めています。特に今年は新型コロナウイルスの関係もあり、新たなマニュアルの追加や物品の確保に至るまで細やかに活動を行っています。これからもみんなの生活がより良いものになるよう頑張ります。

①「衣食住についての充実・改善」
火災や自然災害等リスクが起りうる状況を仮定し、どのように対応するか検討しています、毎月主的に火災避難訓練を実施しています。また、年1回、消防署指導による救命救急・AED講習会も受講しています。

②「災害リスクマネジメント」

衣食住は生活中で最も大切な要素です。おいしい食事をとり、安心して眠れる環境を提供するにはどうしたらいいか定期的に話し合っています。主な活動は以下の3つです。

安心安全委員会

行事委員会

研修委員会

対外広報委員会

安心安全委員会の活動紹介

ヒューマンストーリー

子どもと共に生きる ~旧職員 西村 照子~

小学校6年生の時、ザルを片手にお米の配給所に向かっている矢先、空がピカッと光り、「ドーン」というけたたましい音が鳴り響いた。あわててザルを持ったまま防空壕に入り、恥ずかしさのあまり笑っていると「笑うな」とひどく怒られたのを覚えている。その後しばらく、空に燃えかすのようなものが浮遊していた。夕方になると、長崎から怪我人や原爆にあった人達がトラックで運ばれ小学校の講堂に収容されていた。戦争の影響でみな何かと大変だった。私が中学3年生の時に二人目の母が病気で亡くなり、その後、当時小学生、4歳、1歳半の小さい妹弟の母親代わりとして家庭の面倒を見ることになった。実母の顔は見たことがないが、学校の先生をしていたと聞いている。



三菱造船の保安部で働く父の退職を機に、家事を交代する形で24歳の時、初めて就職したのが大村子供の家だった。当時、学童（小学生以上）が半分、幼児が半分ずつの80人ほどの子どもが生活しており、初めは幼児室に配属となった。終戦後、ララ物資で外国から大人用の古着が送られてきたため、それをほどいて子ども用の服にした。パンツ、開襟シャツも全部手作り。布地は買ってもらうこともあった。洋裁学校に通い学んだ技術が活かされた。当時、勤務時間などはなく、朝起きて夜寝るまでが仕事だった。大変だったが苦労と思わなかった。むしろ楽しかった。六畳一間に三人寝起をしていた。きつい夜などあっちむき、こっちむきと寝ていた。仕事の合間に街に買い物に出かけたり、市内の映画館まで歩いてナイトショーを見に出かけたりもした。車が珍しかった当時、松本先生（施設長）が持っていたセドリックにたくさん荷物を積んで、子ども達と一緒にキャンプに出かけたのも良い思い出。

台風が来ているともつゆ知らず、テントが壊れて近くのトイレで雨風をしのいだのも今では笑い話。松原の海水浴場にも皆でよく足を運んだ。担当だった子が破傷風にかかり入院した時など数日間つきっきりで看病したこともある。当時は園内の草むしりや清掃、皿洗いなど子ども達も職員と一緒にになって働くのが当たり前。結婚後も近所の家から通い仕事をつづけた。

どんな境遇の子どもに対しても愛情を持ち、どんな子であっても叩くことはいけないと自分の信念を持って、子ども達と共に過ごした数十年間。卒園していった子たちは今どこで何をしているのか。

今も当時の思い出と共に子ども達を案じる日々である。

行事予定

7月・・子供の家七夕会（23日）、法人子供の家就職見学会（25日）

8月・・法人子供の家就職見学会（8日）、子供の家お盆キャンプ（13日-14日）

9月・・調整中



編集後記

「人と接することを控えなさい」と言われると、家で一人ゲームやパソコンをしてしまいがちです。今まででは家でゲームをして遊ぶよりも外で友達と遊ぶことが良しとされた価値観は今後、180度変わってしまうかもしれません。これを機に山や川、海といった自然と接してくれればと思う今日この頃です。KM

社会福祉法人 大村子供の家 〒856-0811 長崎県大村市原口町
591番地2 TEL 0957-55-8319 FAX 0957-55-4661



b&g 放課後児童クラブ おおむら

ウイルスに負けない心で
一日一日を大切に！

新型コロナウイルスの影響で小学校の臨時休校処置など慌ただしい日々が続きましたが、今は落ち着きを取り戻し、元気で賑やかな b & g が戻ってきました。

b & g での一日は、学習時間から始まります。まず学校から帰ってくると自分のペースで黙々と行う児童や、大人がついて一緒に取り組む児童など、個々のペースに合わせて宿題を行います。その後は自由時間。おやつを食べたり、外で遊んだり、室内で漫画を読むなど好きな過ごし方自分で選びます。最近は外で遊ぶ子が多く、イースト広場で水遊びをしたり、ある児童は「仕事」と称してイースト広場の中に一生懸命水路を作り、水を流して遊んでいます。その姿には貫禄があり、我々スタッフもどのような水路が完成するのか楽しみにしています。

その他、スタッフと一緒に夕食やおやつを作る児童もいます。以前は包丁の使い方が危なっかしく、見ている側もハラハラして見守っていましたが、現在では使い方にも慣れ、炒め方や味付けも自分で行い、スタッフの手を借りずに調理ができるようになりました。子どもにはとにかく体験させてみると案外上手に作業をこなせるようになります。本来であれば海に、川に、里山などでかけ、自然の中で遊ぶ体験を通して「生きる力」「考える力」を育みたいのですが、コロナ自粛の関係で、しばらく外出イベントを控えています。早くコロナが終息し、思いきりイベントに参加できるようになる未来を願って、一日一日を大切に過ごしています。



認定こども園 キッズランド ～自然を楽しもう～

4月から新しいお友達が増えたキッズランド！

春から初夏にかけて5つの保育・教育目標の一つである「自然体験型の保育・教育」を積極的に進めてきました。植栽や芋の植え付け、豆の収穫と豆おにぎりクッキング。めだかの孵化にも成功。園庭のパッションフルーツも越冬し、また実をつけ始めています。秋には芋掘りやしいたけ狩りなど、引き続き自然を楽しむ予定です。



※シバヤギのサクラ（♀）はお年頃を迎え、メリー（♂）の住む飯盛町の法人職員宅へ嫁入りしました。可愛がっていただきありがとうございました。赤ちゃんが産まれたら、また皆さんにご報告させていただきます！

児童養護施設 大村子供の家 Let's enjoy fishing !!

ゴールデンウィークは毎年、ホームで外出して、新体制となった子ども・職員との思い出作りをする時期でした。しかし今年は、新型コロナウイルスの影響で大好きな部活も遠出もできない、インドアな生活…。

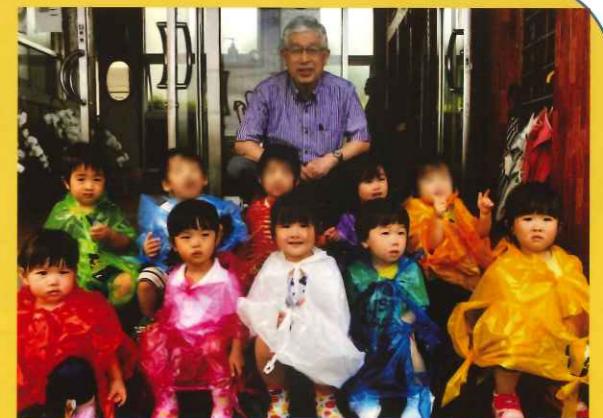
そこで、5月5日に男子ホームで彼杵港まで魚釣りに行ってきました！

風が強く、曇りと生憎の空模様でしたが、我先にと言わんばかりに各々釣竿を準備していました。釣りを始めてしばらくすると「釣れた!!」という声がちらほら。キスやコチ、ハゼなどが釣れました。

高校生は3時間、釣りに夢中になっていました。一方小・中学生は、「餌が気持ち悪くて触れない～!!かわりにつけて～!!」と言ってくる子や、仕掛けを上手く投げることができない子、途中から落ち葉や海藻を引っかけて喜んでいる子や、テニスボールを釣った子、持ってきたお菓子でお茶会をしている子がいました。

外出できない日々が続き、子どもがストレスを感じているようでしたが、久しぶりにみんなが笑顔で生き生きと楽しそうな姿を見て、職員一同も嬉しく、ほのぼのとした気持ちになりました。

今後も自粛は続きますが、新型コロナウイルスに負けず、子どもの笑顔を守って生活していきたいです。



小規模保育園 キッズホーム ～カッパレンジャー参上～

梅雨のジメジメを吹き飛ばそうと、キッズホーム職員が子ども達のためにカラフルなカッパを作りました。一人一人違う色。これで雨もへっちゃら！いざ外へお出かけ…と思いきや、あいにくその日は晴れ…雨が降っていません。スタッフはあわててホースで水しぶきを上げ、水遊びを開始。子ども達は喜んでいました。現在、室内でカッパを乾かしていますが、子ども達が指さして、「また遊びたいね！」とつぶやいています。

理事長と一緒にいチーズ！

ご寄付・ボランティア御礼

日頃より皆様方からの子ども達に対する温かいご支援誠にありがとうございます。コロナ自粛の中、子ども達を心配してマスクやおもちゃ（けん玉）、洋服などをご寄付いただきました。コロナ自粛が少し和らいだ6月下旬以降は、少しずつ野外活動にもご招待いただき、もち米の田植え経験をさせていただきました。初めての体験で子ども達も喜んでいました。秋の収穫が楽しみです。子ども・職員一同、心から感謝申し上げます。

